



## 甘い雪室リンゴを味わう

2月19日、鶴田小学校の5年生30人が町農家中野光彦さんの自宅敷地内で雪室リンゴの掘り起こしを体験しました。

中野さんは約20年前から町内の子どもたち向けに雪室リンゴの掘り起こしの場を提供しています。

児童たちはスコップを手にし、自身の身長よりも高い雪山からリンゴを掘り起こしていました。また、取り出したばかりのリンゴを試食した児童たちは「シャキシャキで甘い」など雪国ならではの冬の恵みを味わっていました。



△雪室リンゴの説明をする中野さん

## 弘前大学と包括連携協定を締結

1月26日、町と弘前大学（福田眞作学長）は地域の課題解決や活力ある地域社会の形成などを目的とした包括連携協定を結びました。

2021年度から弘前大学が町放課後児童クラブの指導員を対象にした研修会などを行っており、協定締結で町との結びつきをより強めます。

町役場で行われた締結式で相川町長は「指導、助言をいただき、若い世代に選ばれるまちづくりに向けた施策に反映したい」と話していました。



協定書を手にする相川町長と福田学長

## 地域おこし 協力隊通信

Vol.64（筆：葛西あゆみ）

2月3日の節分に豆を買いに行くと、落花生ばかり。あれ？煎り大豆はどこ？夫に聞くとこっちは落花生をまくとのこと。知りませんでした！青森に来て驚いたことの一つです。結局我が家では落花生をまいて、煎り大豆も食べました。

今年は雪が少ないということですが、はじめての青森の冬を子供たちと雪遊びで楽しんでいます。先日念願だったかまくらを作りましたが、小さすぎて入れなかったため、来年はもっと大きなかまくらを作りたいです。

雪室りんごの掘り起こしを体験させていただきました。今まで食べたことのないみずみずしさで感動のおいしさでした。

園地ではぶどうの剪定をしています。ぱっくりと膨らんできた芽に春の訪れを感じています。



▲①雪室リンゴの掘り起こし  
②ぶどうの剪定を行う葛西さん



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。

## ツルツルの日 “ハゲ” しい戦い

ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）は「ツルツル」の語呂にちなんだ2月22日、春の例会「新春の有多毛」を町内の山田温泉で開きました。

県内外から45人が参加した例会では、穴の開いた絵から出した頭を見て誰の頭かを当てる「平和の光当てクイズ」や、的となるハゲ頭めがけて冷却シートを投げる「ハゲピタダーツ」が行われました。そして、はげます会名物の吸盤綱引きでは、行事の「ハゲよい残った」のかけ声と同時に激しい攻防が繰り広げ、会場を沸かせていました。



△一般の方も参加して盛り上がった「ハゲピタダーツ」



## ハイコンポーネツ青森が車いすを寄贈

ハイコンポーネツ青森株式会社（平石彰彦代表取締役）は2月6日、鶴田町社会福祉協議会へ車いす1台と歩行器3台を寄贈しました。

同社による寄贈は2013年から毎年行われており、今回で12回目。購入費は社内組織の「部課長会」のメンバーの積立金を活用しています。鶴遊館で行われた贈呈式では、同社の木立情報システム部長らが出席。同社協の秋庭隆貢常務理事に車いすなどを贈りました。



町社協に贈られた車いすと歩行器

## 自分たちが田植えしたお米で餅つき

鶴田小学校の3年生約80人が2月9日、「豊明館」で昔ながらの餅つきを行いました。

今回の餅つきは、つがるにしきた農協鶴翔支店の「ふれあい感謝祭」の一環で初めて行われました。もち米は昨年5月に児童たちが田植えした「あかりもち」を使用し、同農協の女性部と青年部が児童たちをサポートしました。

当日は青森米の応援キャラクター「お米大使」が応援に駆けつけ、児童たちはおいしいお餅になるように重い杵を力いっぱい振り下ろしていました。そして、つきたてのお餅をきな粉とあんこで味付けし、自分たちで作ったお餅をおいしそうに頬張っていました。

